



第81回

春季特別展

広重と東海道展 一行書東海道・隷書東海道を中心に

歌川広重（1797～1858）は、定火消同心安藤源右衛門の長子として生まれ

ました。順調にいけば、定火消同心安藤重右衛門として生涯を終える予定でしたが、両親の死亡や叔父にはじめての男子の出生という偶然が重なり、広重は浮世絵師として生きてゆくことを決心しました。広重が安藤家を離れてから制作したのが「保永堂版東海道」です。この作品は広重の出世作であると共に浮世絵史上に残るほどの大好評で広重は一躍売れっ子絵師の仲間入りをしました。その後広重には様々な版元から風景画（名所絵）を中心に依頼されましたが、なかでも東海道シリーズは群を抜き生涯に約20種類以上制作しています。

今回の展覧会は、前期に引き続き東海道の後半の「袋井」から「京都」までを展示します。紹介する作品は「東海道 四十四 五十三次 四日市」（大判 版元：丸屋清次郎）です。この作品は嘉永年間に制作された作品で「保永堂版東海道」が出版されてから約15年以上の歳月が経っています。この頃の広重は押しも押されもしない一流の浮世絵師として活躍していました。「保永堂版東海道」を制作した時よりも画技共に充実した50歳代に入ったところです。作品は人の立った視点で描かれています。正面は伊勢路に向かう人達が通る鳥居を中心に左右には茶屋が描かれています。場所は四日市宿のはずれ日永（三重）の追分です。

茶屋には、休憩を取る旅人が見えます。鳥居の下の三人の子どもは抜け参りです。抜け参りは親や勤め先に許しを得ないまま出発します。またお金や道



「東海道 四十四 五十三次 四日市」（大判）個人蔵

中手形も持っていません。持っているのは喜捨を受けるための柄杓を一本だけで伊勢神宮を目指しています。背中には寝るためのゴザや笠を背負っています。その右側には武家の夫婦が白い犬にまんじゅうをあげているところです。実はこの犬も伊勢神宮を目指しています。主人が行けないかわりの代参です。伊勢神宮にお参りする人は、文政13年の3月から8月の半年間で約460万人以上の方が参拝しています。

馬頭広重美術館長 市川信也

【開館時間】 午前9時30分より午後5時まで
(但し入館は4時30分まで)

【休館日】 月曜日

【入館料】 大人 700円 (630円)
高・大学生 400円 (360円)

※()は20名以上の団体料金。

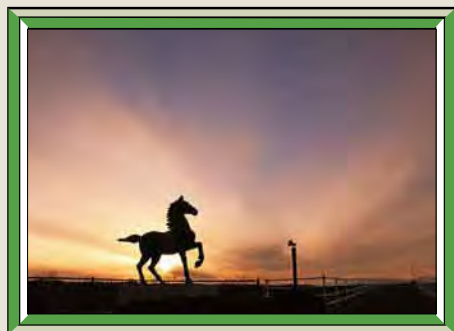
※70歳以上の高齢者、中学生以下は無料。

※障がい者手帳等をお持ちの方・付き添い1名は半額

ミニギャラリー 平成22年度那珂川町観光写真コンテスト 受賞作品



下野新聞社賞「のどかな里山風景」
釜井 三木さん (宇都宮市)



夕焼け賞「夕映え」
大野 和三さん (那須烏山市)

広重美術館 入館無料のお知らせ

栃木県民の日にあたり、入館料が無料となります。ぜひ、お誘い合わせのうえご来館ください。

実施日 6月15日(金)

対象 栃木県民

(免許証等住所がわかるものをご提示ください。)

問い合わせ

広重美術館 ☎0287-92-1199